

仙台市沿岸被災地のくらしを伝える ～仙台市歴史民俗資料館の被災地関連展示～

仙台市歴史民俗資料館の常設展示室では毎年3月に「被災地関連展示」と題し、仙台市沿岸部のかつての風景を写真で展示しています。また、常設展示で見られる被災地域での生業に使われた道具は、それが被災地のものであることが分かるように掲示しています。震災以前の平成8年（1996）に製作した映像「仙台浜の漁業」では、仙台の荒浜（深沼）での漁業の様子や盆と正月の行事もご覧いただけます。このほか、昭和56年（1981）発行の調査報告書「荒浜の民俗」は聞き取り調査を基にしたもので、当館のホームページで全文を公開しています。



被災地関連展示の全景



被災地域で使われた漁具の「どう」



百束たき子さんの東日本大震災を伝える紙芝居

震災の記憶を後世につなぐイベントとして、平成28年（2016）から平成30年（2018）には東日本大震災での体験手記をもとにした朗読公演を「朗読リラの会」に行ってもらいました。令和3年（2021）3月に、紙芝居「ふるさとがきえた～東日本大震災物語～」を百束たき子さんに上演して

いただきます。また毎年3月には「3.11 オモイデアーカイブ」さんの協力で被災地の被災直後とその後の復興の様子を示す定点観測の写真も展示しています。



被災直後とその後の様子を示す写真